

中華人民共和国東北地方における芸能・芸術調査 — 現代劇『秋天的二人転』とドキュメンタリー映画『鉄西区』について	
後藤 典子	比較社会文化学専攻
期間	2006年9月21日～2006年9月30日
場所	中華人民共和国
施設	長春電影廠、長春市劉老根大舞台影院、遼寧民間芸術団、北京市国家図書館

【指導教員のコメント】

二人転は中国東北地方の伝統芸能で男女二人の掛け合い漫才のようなものである。日本におけるのと同様、中国においても地方の伝統芸能の多くが滅びるか、ただ保存される対象となっている中で、二人転は現在もなお、東北地方において大衆の人気を博している。特に最近では、二人転出身（現役のパフォーマーでもあるが）の人気俳優趙本山の中央芸能界での活躍もあり、二人転のAVソフトも出回り、二人転を素材とした演劇も上演されている。二人転の特徴はその上演形態、内容の融通無碍さにあり、最近ではエレキ・ギターを伴奏にするロック風二人転なども登場している。

このように、二人転は大衆の間で旺盛な生命力を持つ芸能であり、グローバル化するアジアの大衆文化を考える上で非常に興味深いものであるが、中国においても、日本においても先行研究がほとんどない。

本調査では、東北の舞台における実際の上演の様態（舞台と客席の双方）を調査し、また、二人転を素材とした演劇『二人転』の作者はじめ関係者にインタビューを行い、今後の研究のための基礎資料を収集した。

（文教育学部 教授 宮尾 正樹）

※調査実施後体調不良のため、今回の報告は見送られた。